

澄んだ声 木のでっぺんで胸張って
— ホオジロ —

陶史の森でも1年を通じてみられる野鳥です。成鳥は全長17cm程でスズメとほぼ同じ大きさですが、尾羽が長い分だけ大きく見えます。平地から山地までの草原、農耕地、河原、疎林そりんなどに住んでいる留鳥または漂鳥です。

全体は赤みのある褐色で背には黒色の縦斑があります。雄の頭の上面が茶褐色で顔に黒色の部分があります。雌は全体が淡色で顔に茶褐色の部分があります。雄と雌のどちらも頭頂の羽を冠のように立てることがあります。「ホオジロ(頬白)」という名ではあるものの、頬というよりも頬線が白くなっています。過眼線(目のところを通る線)や顎線は黒色または茶褐色のため、互い違いの帯模様のように見えます。

地鳴き(注1)は「チチッ、チチッ」と二声を出します。アオジをはじめ日本の他のホオジロの間はいずれも「チッ」と一声なので、聞き分けることは容易です。繁殖期になると雄は丈の高い草木の頂上などでさえずります。「チュッピン、チュチュツ、チュー」とさえずりますが、聞きなし(注2)では「一筆啓上仕り候」「札幌ラーメン、味噌ラーメン」が有名です。

つがいで仲良く行動している様子を見ることも多く、ほっこりした気持ちにさせてくれる鳥です。

冬は、木々の葉が落ち野鳥を観察しやすい季節です。カメラや双筒眼鏡などを持ってバードウォッチングをするのもとても楽しいです。

注1 地鳴き：さえずり以外の日常的な鳴き声(コール)。さえずりは、繁殖期の雄鳥が、メスへの求愛や縄張りの宣言のために歌う鳴き声(ソング)。
注2 聞きなし：鳴き声をそれに似た言葉やフレーズに置き換えて聞くこと。



◀ホオジロ♂



◀ホオジロ♀



◀胸を張ってさえずるホオジロ

森の
日記
キノコ教室を開催しました
10月3日(日)

10月1日に緊急事態宣言が解除されたことから、コロナ対策に十分配慮してキノコ教室を開催しました。開会や閉会などの密になる状況を避け、キノコの判別や説明のみの会となりましたが、参加者は、森内で採集したキノコを持ち寄り、種類や説明を聞いていました。食べることができると分かると食べ方を聞いて、大切に持ち帰る人も多くいました。※普段は採取できません。



教室のご案内

12月
●バードウォッチング
(要申込 定員10人)
12月26日(日) 午前9時~11時
雨天中止
初冬の野鳥を観察します。

1月
●バードウォッチング
(要申込 定員10人)
1月23日(日) 午前9時~11時
雨天中止
冬の野鳥を観察します。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。